

六月三十日、キャノンエソリューションズ(株)は同社が開発販賣を進め来れる日本語 DTP (desktop publishing) ソフト「Edicolor」を本年末を以て終了すと発表す。吾嘗て本ソフトの前身「SM-EDIAN」の開発に協力したることあり、感慨深きものを感じず。

この DTP、無論その先驅は米國にて、當時既に Pagemaker など輸入あるも、假名遣、漢字それに訓點、ルビ、割注など獨特の複雑性のある日本語書き言葉の文字組版の電子化にはなほ解決すべき問題數多ありけり。試みに

- ① 學業を終えて後、自らの生業として、教育に携わつた。
なる現代文を電筆にて作らむとするに、先づ現代表記(左傍線)にて
- ② がくぎようをおえてのち、みづからのなりわいとして、きよういくにたづさはりたり。
と打ちて、「變換」キーを押し、若干の調整作業を経て作業を完成し得。便利なり。

されどもしこれを文語表現(常用漢字、現代假名遣の適用對象外)にて

- ③ 學業を終へての後、自らの生業として、教育に攜はりたり。
と作るとせば、文體を文語とし、假名遣を歴史的假名遣に改め(左傍線)
- ④ がくげふををへてののち、みづからのなりわいとして、けういくにたづさはりたり。
と打ちて、「變換」キーを押すのみにては作業を完成し得ず。現在の電筆上にてはこれを

可能とするソフト(「契沖」)既にあるも、恐るらくはこれを使用せずは、先づ②により①を得て、その傍線部を一つ宛③の傍線部に打ち直すを要す。制作過程は現代文に比べて遙かに煩瑣なり。加之、當該箇所を打直しに遺漏避けられず、印刷ゲラにて氣附き訂正を繰返すも、最終文書になほ漏れを残し、可惜不名譽の譏を受くるに至らむ。昭和の終り頃までは、識者手書きにて原稿を草し、印刷所はこれを熟練の文選、校正にて誤りなく製版す。電筆の普及により博く著者自身にて製版が可能となるも、同時に印刷は著者の原稿電簿ファイルからの直接印刷へと進みつゝあり。

かゝる趨勢下 DTP の有する意義は大なり。即ち DTP は著者側の校正強化、更には意匠面への參畫をも可能とし、實際に印字してこれを完全版下として印刷所に提示することにより、印刷物の資料としての品質並びに價値を高むるを可能とす。

A5判の二段組など一行二十五文字前後の設定多く、例へば假名書きの多き和歌の表示が一行に収らぬことあり、通常は印刷試行して初めてかゝることに氣附くこと多し。DTP にての印字は正確に本印刷の原板なれば、和歌はすべて二行に、或いは假名の文字間隔の調節など、後續頁への影響を含め、著者の側にて各種工夫が可能なり。

Edicolor はかゝる需要を満す DTP として、本會の電網上架、小冊子などの印刷刊行、最近はメルマガにも活用の幅を廣げ来る。一方米國製日本語 DTP にも Adobe In Design など出色のもの寡からず、之を否定するには非ざるも、先方の方針變更その他の事態にも對處し得る體制は文化的安全保障の面からも必要にして、取敢へずは Edicolor の使用を繼續しつつ、之に代る國産ソフトの登場までを凌ぐべきなり。その意味にて本會會員による Edicolor の活用は大いなる援軍となり得べし。

(平成二十八年七月二十五日受附)